

第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価表(全体評価)

資料8

大項目名		評価の記号	評点 (α)	評価比率 (β)	$\alpha \times \beta$	評価の記号	全体評価に関するコメント									
		(大項目評価) ※1	※2	※3		(全体評価)										
第 2	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	—				別紙のとおり										
	1 教育			15%												
	2 学生の確保と支援			10%												
	3 研究			10%												
	4 地域・社会貢献			15%												
	5 平和			10%												
	6 国際化			10%												
第 3	業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置	—						別紙のとおり								
	業務運営の改善及び効率化			10%												
第 4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	—								別紙のとおり						
	財務内容の改善			15%												
第 5	自己点検、評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	—										別紙のとおり				
	自己点検、評価及び情報の提供			2. 5%												
第 6	その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	—												別紙のとおり		
	その他業務運営			2. 5%												
計					※4											#####

(注)※1 「評価の記号(大項目評価)」は、各大項目の評価結果を「SABCD」の5段階で記入してください。

※2 「評点」は「評価の記号(大項目評価)」と連動します。S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

※3 評価比率は、令和8年度第1回法人評価委員会で決定したものです。

※4 「評価の記号(全体評価)」は、次のとおり、この数値($\alpha \times \beta$ の計)と連動します。

$\alpha \times \beta$ の合計=Xとすると、 S・・・4.5<X A・・・3.5<X≤4.5 B・・・2.5<X≤3.5 C・・・1.5<X≤2.5 D・・・X≤1.5 となります。

全体評価に関するコメント

○全体評価については、概ね大学側の自己評価のとおりで可とするが、研究、および財務内容の改善については、特に外部資金確保のための取組が顕著であることと、その結果として採択額ならびに件数が目標値を越えて伸びていることから、大学側の自己評価を一段階上げた評価とした。一方で、自己点検、評価及び情報の提供は、順調ではあるものの特筆すべき成果が見られないこと、その他業務運営全般についてはハラスメント事案が続いていることから、大学側の自己評価を一段階下げる評価とした。

○中期目標期間全体を通して、教育改革や教育DX、地域・企業との連携など、将来を見据えた基盤整備が着実に進められてきたことが感じられた。特に芸術学部では、地域や企業、自治体との協働による実践的な教育や、制作環境の充実に継続して取り組み、芸術を社会と結び付ける教育が展開されている点を評価したい。こうした取組は広島市立大学の特色を示すものでもあり、今後は教育・研究の成果を学生の成長や地域社会への更なる価値創出へと結び付けていくことを期待したい。

○第2の4「地域・社会貢献」（大項目④）の「地域連携及び産学官連携の推進」（小項目⑩）
芸術学部の造形に限定されるかもしれないが、広島市の各施設（公園や小・中・高等学校、公共施設など）での学生の作品展示について検討してはどうか。特に比治山公園の平和の丘での作品展示は、「街づくり」と「にぎわいづくり」に貢献するのではないか。平面展示のみならず、造形物の展示機会の広がりが市民へのPRにもつながると考える。

○教育の質の向上に向けては十分な措置がとられていると思う。業務運営や財務内容については、問題があると考えたわけではないが、引き続き向上が求められていると思う。

○教育については堅実に行われている。全学共通系科目は学科横断型で広島市立大学の特徴でもあり、ニーズに沿っての改善は評価できる。「イノベーション人材育成プログラム」など社会的ニーズにも合致する専門科目の開講等も良い。平和学は広島市の特色なので、是非単位互換制度を発展させながら、平和学をより浸透させて欲しい。大きな組織改革も評価できる。URAの設置や専門業者によるアドバイス等研究費獲得のための前向きな姿勢は評価できるが、大型研究費の一層の確保などに尽力してほしい。